「昭和最後の三年間」

41 期　鴨井暁比古

70 周年、おめでとうございます。41 期の私が入部して 30 年になりますが、それでも半分以下であることを考えると歴史の重みを感じます。在学当時を振り返り、少し記したいと思います。

＜昭和最後の 3 年間＞

私が西高在学中の 1986～88 年といえば、男子は斎藤清・小野誠治、女子は星野美香が全盛期でした。特に小野選手のカミソリスマッシュには強く憧れて、少しでも近付こうとマネしたものですが、今となっては当時の 38mm セルロイド球のような軌道の球が打てるはずもありません。

当時の活動を思い起こしてみますと、練習は週 3～4 日、体育館の半面に 6 台ほど並べて練習していました。現在の格技棟は在学中か卒業間もない頃に完成したと記憶しています。夏合宿は秩父の美津根園へ行きました。その成果はと言いますと、先輩方の輝かしい戦績とは程遠いものでした。私立高校はやはり強く、実践商業（現実践学園）を筆頭に、日大・明治・早稲田・帝京・東海大などの付属や、国学院久我山、関東一高、堀越、修徳、また都立では永山などが強豪校として記憶にあります。

また在学中の OB 会で一度、大先輩荻村さんにお目にかかる機会がありました。お忙しい中、夜の会だけご出席いただき、ご自身の世界大会のビデオを上映して解説をしていただいたのを覚えています。

＜国公立大会＞

そんな中、私立には歯が立たない我々でも上位を狙える大会が東京都の国公立大会でした。八丈島からは都立八丈高校も船でやって来るとあって、参加校は 120 校以上とそれなりにやっつけ甲斐のある大会ではありました。

私が 3 年生の 1 学期にクラスマッチのハンドボールで肋骨 4 本骨折し、引退試合となる夏の国公立は諦めていました。しかし申込間近になって回復し、決まりかけていた団体戦メンバー（4 人）を再考しようと申し入れ、ゲームで再選出して私も出場することになりました。（間際で次点となった 2 年の伊東君には申し訳ないことをしました。）

無理矢理メンバーになったものの私は4番手の捨て駒で、他は1年生でエースの山内君、2年生からは山川君と私の弟でした。余談ですが私たち兄弟と山内君は練馬の石神井中、山川君はお隣の上石神井中出身ということでご近所さんのチーム編成となりました。

当日は、とにかく相手のオーダーを読んで私をエースに充てる作戦を貫き、それが功を奏して7回勝ち続け優勝することが出来ました。全部は覚えていませんが、日比谷・戸山といった宿敵や強豪永山をも下しての優勝だったと記憶しています。

＜近況報告＞

卒業後はしばらく卓球から離れ、今でも続いているバンド活動に傾倒することになりますが、数年後からは時々OB会に参加させていただくようになり、最近では地元の市立体育館で活動するクラブで毎週末、息子と一緒に卓球をしています。

卓球を再開して間もない頃、某市のオープン大会に参加した際に新しいウェアが無く、西高時代のユニフォームを引っ張り出して着ました。すると若い対戦相手から「西高のOBの方ですか？荻村さんの高校ですよね」と声をかけられ、改めて大先輩の偉大さを実感したのでありました。

最後になりますが、歴史を築かれた先輩方や OB 会で快く迎えてくれる若手の方々のさらなるご活躍と、100 周年へ向けて西高卓球部が益々発展されますことを期待しております。